

# マンガ論

担当 大石真澄先生

トーク力抜群の  
おもしろい先生です

## 授業の概要

この講義では、マンガについて論じるさまざまなやり方と視点を紹介し、その結果それらのやり方を身につけてマンガを論じられるようにすることが目的です。マンガについて、その特徴である印刷物としての性格から流通についてまで広い視野を備えて、マンガを含めた文化全体について考えられるようになることを目指します。



## 授業計画

授業前にシジュメと出席シート(質問・感想用紙)を配布いたします。

毎回の講義は「切り口を考えるレッスン」として行います。以下、授業計画の後のカッコ内に示している～章という表記は、テキストに沿ったものです。

- 第1回 マンガと「マンガではない」こと ～表現・言及形式としてのマンガとは
- 第2回 マンガの歴史(第2章)
- 第3回 マンガ表現論 ～マンガをマンガとして語るとはどのようなことか(第4章)
- 第4回 マンガとキャラクター(第5章)
- 第5回 マンガとジェンダー・セクシュアリティ ～少女マンガを中心に(第6章)
- 第6回 マンガと映像・芸術論(1) ～コマ割りとその進行(第7章)
- 第7回 マンガと映像・芸術論(2) ～マンガ原作とアニメへの移動から(第7章)
- 第8回 マンガと文学(第3章)
- 第9回 マンガと記号論(第8章)
- 第10回 マンガの描き方「論」(1) ～マンガ技法書の影響とその意味
- 第11回 マンガの描き方「論」(2) ～現代のマンガ技法書から見るマンガの読者
- 第12回 マンガを「批評」する人 ～マンガ批評の成立とその意味
- 第13回 教育とマンガ ～教育的論争を中心に見るマンガの社会的位置の変遷(第1章)
- 第14回 マンガと著作権 ～同人マンガ、二次創作と著作権をめぐる
- 第15回 マンガとメディアミックス ～書籍・出版物を超えて変形する「マンガ」とは

授業ごとに配布されるリアクションペーパーと期末テストが評価対象!

## 展示資料

テキスト 小山昌宏、玉川博章、小池隆太郎『マンガ研究13講』(水声社)

展示資料は  
見逃さないで!



## コメント

この授業では、マンガを論ずるとはどういうことか、を学んでいきます。マンガを読んで感想を述べることと、マンガを論ずることの違いを学ぶことができました。

マンガを読むときに新しい着眼点も生まれて、楽しかったです。

私はマンガを描くことも好きなので、この授業を受けてからは読み手を意識して描くようにもなりました。